

日本高校生「ふれあいの場」訪中事業

須山 聡也 / 国際教養大学 / 2016 / 中国

- ① 最後まで志望校選びに悩みましたが、自分を一番伸ばせる大学を選んだ結果、今いる国際教養大学を選びました。大学ではSRTという北東アジア学生ラウンドテーブルというサークルに入り、このままやめることがなければ、夏にモンゴルに行く予定です。
- ② やはり、近くて遠い国、中国に行けたことにより、実際に行ってみないと分からないことを知ることができ、今でも連絡を取り合う中国人の友達ができたことは本当にかけがえない経験ができたと思えます。アドバイスとしては、何事も初めの一歩はすごく怖いものです。ですが、一歩踏み出した後は、二歩も百歩も変わらないので、とりあえず、一歩踏み出してみてください。

【質問】

- ① 近況をお知らせください
- ② プログラム参加を通じて得たこと、アジアを体験したことの意義、これからプログラム参加を考えている人へのアドバイスなどを教えてください

国際教養大学入学式



かめのり中高生アンバサダープログラム

菊田 悠世 進学 / 就職先：東京学芸大学附属国際中等教育学校 / 2017 / フィリピン

- ① かめのり中高生アンバサダープログラムに参加して、私には新たな夢ができました。それは、フィリピンの貧しい人々を助け、フィリピンの成長をサポートすることです。プログラム中にストリートチルドレンがいる施設を訪れ、街のスラム街を見学しました。私たちが豊かな生活をしている一方、毎日を生きるのに精いっぱいな人を目の当たりにして、心がうたれました。そして、何かこの人たちのためにしたいと思うようになりました。その何かとは、経済的な支援というより、教育や衛生など社会インフラの支援のことであると考えました。施設にいた子どもたちは、英語が話せませんでした。フィリピンでは英語ができないと良い仕事を得ることができないので、結果的に貧困から抜け出せずに貧困の負のサイクルにはまってしまう。また、ホストファミリーからはフィリピン政府のガバナンス能力の低さについての話を聞きました。警察や公務員の汚職や横行する脱税などが、最たる例だそうです。これらは、脆弱な法施行からきています。これらのフィリピンでの見聞を通して、社会インフラの整備が整っていない状況を知ることができたため、将来はフィリピンの人々の生活を改善すべく社会インフラを整えたいと思います。まずは、私の将来の夢をかかなる前に、目の前に迫る大学受験に励みたいと思います。
- ② プログラムを通してフィリピンの人の心を学ぶことができました。まずは家族のつながりの強さに何よりも驚きました。おじいちゃんおばあちゃんと暮らすのは当たり前で、休日は家族と一緒に過ごすといえます。家族内の距離もとても近く、コミュニケーションが盛んです。ほかにも、訪問者を快く迎え入れてくれるホスピタリティに感銘を受けました。ホームステイの際に私にとってもよくしてくれました。これらのフィリピンの人の心は、私達日本人が失いかけているものではないのかと思いました。物質的にはフィリピンのほうが貧しいかもしれませんが、精神的な面では私達よりも豊かです。つまり私たちはフィリピンの人から学ぶこともたくさんあるのです。これに気付けたことが、アジアを体験した意義ではないのかと思います。百聞は一見に如かず、という言葉がありますが、これからプログラムに参加を考えている生徒には積極的に応募し、実際に現地での自分の五感を使い、アジアの文化などを体験してほしいと思います。自分で体験したことは一生の宝になります。



お世話になったフィリピンのホストファミリーと

かめのりスクール

早坂 大希 / 麻布大学獣医学部獣医学科 / 2014

- ① 今年、麻布大学獣医学部獣医学科へ入学しました。大学では、獣医師として社会に出て働くうえで必要な知識や倫理観について学んでいます。私は、幼少期をタイで過ごし、その中で様々な動物に直接ふれ、生命誕生の瞬間や死を通して、命の魅力に触れました。その命の魅力を多くの人々に知ってもらいたく、獣医師として水族館へ勤め、動物の健康を管理して多くの人々に命に直接触れる機会をサポートしていきたいと考えています。一人でも多くの人に魅力を感じてもらい生物系に興味をもち進んでくれる人を増やし、これからの環境問題が少しでも改善されれば良いなと思っています。
- ② プログラムに参加して得たものは人とのつながりです。日本中のいろんなところだけでなく、アジア中の人々と友達になり多くの意見を交わし、一緒に活動したことで得られる友情は大切なものだと思います。今でもプログラムに参加した人とはつながりがあり、定期的に連絡を取っています。



実習にて入院中の牛を世話

仲間からの便り

高校生短期交流プログラム

福田 佳奈子 / 法政大学 / 2012 / 中国

- ① 大学に進学し3年間勉学に励みましたが、1年の大学生活を残し、休学をしてカナダへ9か月間留学することを決めました。理由はさまざまありますが、一番大きな理由は、4年間の大学生活をこのまま終え、後悔することは何かということと考えたとき、最初に浮かんだのが長期留学に行かなかったことになると思ったということです。勉強も遊びもバイトも毎日余すことなく時間を使ってやってきましたが、このまま終わってしまうのは絶対に後悔してしまうと思いました。タイミングが正解かどうかはわかりませんが、やらない後悔よりやる後悔だと常に考えているので、選択自体はわたしにとって糧になると思っています。
- ② いままで経験したことのないことに挑戦してみる、未知の世界に足を踏み出すことは、勇気のいることだし怖いと感じることだと思います。わたしがプログラムに参加したのは5年も前になりますが、参加してよかったという思いは、今はありません。何かひとつ、勇気を出して踏み出すことは、それが何であれ、その後の自分の糧になることは間違いありません。選択に迷ったとき、とりあえずやってみよう、やらない後悔よりやる後悔、という言葉が常に念頭においています。結果は誰にもわかりません。まだみなさんが学生なられることはどんな小さなことでもやったほうが絶対にいいと思います。成功も失敗も経験は無駄になりません。ぜひ参加して自分の糧にしてもらえたらいいと思います。



現在留学中のトロント

【質問】

- ① 近況をお知らせください
② プログラム参加を通じて得たこと、アジアを体験したことの意義、これからプログラム参加を考えている人へのアドバイスなどを教えてください

高校生カンボジアスタディツアー

川本 直実 / University of Sussex International Development and Relations / 2014 / カンボジア

- ① カンボジアへのスタディツアー参加後、将来発展途上国の教育開発に携わりたいと思うようになりました。進学先を決める際は、発展途上国にフォーカスした学問を探るところから始まりました。そして、日本ではあまり馴染みのない開発学に辿りつきました。日本での大学進学も考えたのですが、せっかくなら開発学の本場で学びたいという思いから現在在学しているサセックス大学への正規留学を決心しました。イギリスでの留学生活は、日本との教育制度の違いに四苦八苦する日々ですが、世界各国から集まったクラスメイトにとっても刺激を受けています。将来の具体的な進路はまだ未定ですが、発展途上国の開発支援に携わりたいという方向性は今も変わっていません。
- ② 日本にいと近いようで、なかなか知り得ないアジアの雰囲気、文化、人々に実際に出会う貴重な機会だと思います。カンボジアスタディツアーが私の進路を変えたようにアジアに目を向けることで世界情勢への視野が広がると思うので、より多くの学生にプログラムに参加して貰いたいです。



寮の裏の牧場で

中学生交流プログラム

須和田 唯 / 東京都立立川国際中等教育学校 / 2016 / フィリピン

- ① 中高一貫のため学校は変わっていませんが、高校生にあたる後期課程に進級し、今は高校の勉強、特に英語の勉強と、部長を務めている吹奏楽部の練習に力を入れています。国際交流は昨年のフィリピンのプログラム以来参加していないので、機会があれば、アジアにとどまらず、いろいろな国に行ってみたいです。将来の夢はまだ決まっていませんが、大学では社会心理学を学びたいと考えています。プログラム中に訪れた戦跡で、日本軍が集団自決した跡がいくつもあり、集団心理の怖さを目の当たりにしました。心理学を学ぶことで、そのようなことが2度と起こらない社会にするにはどうすればよいかを考えています。
- ② プログラムを通じて得たものは数多くありますが、中でも特に、積極性が身についたと感じています。今までは、やってみよう、と思っても新しいことに挑戦することに抵抗があり諦めていました。ですがプログラムを通じ、自分の目で見て、聞いて、体感することの大切さ、面白さを知り、興味を持ったことに積極的に取り組めるようになりました。またフィリピンで、平和学習から、食べ物、生活様式まで、自分が想像もしていなかったたくさんの新しいものに触れ、様々なことに挑戦する度胸もついたのでないかと思います。フィリピンには、同じアジアであっても日本と違うところが多くありましたが、プログラムを通じて、その違いも面白いと思えるようになりました。それは普段の日常生活にも当てはまることで、プログラムに参加する前よりも、いろいろなことに興味を持ちチャレンジすることができるようになったように感じています。



フィリピンでも披露した能の舞